

季刊

じぱ

Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

柵山 正樹

日本知的財産協会 会長／
三菱電機株式会社 会長

戸田 裕二

日本知的財産協会 理事長／
株式会社日立製作所 理事 知的財産本部長

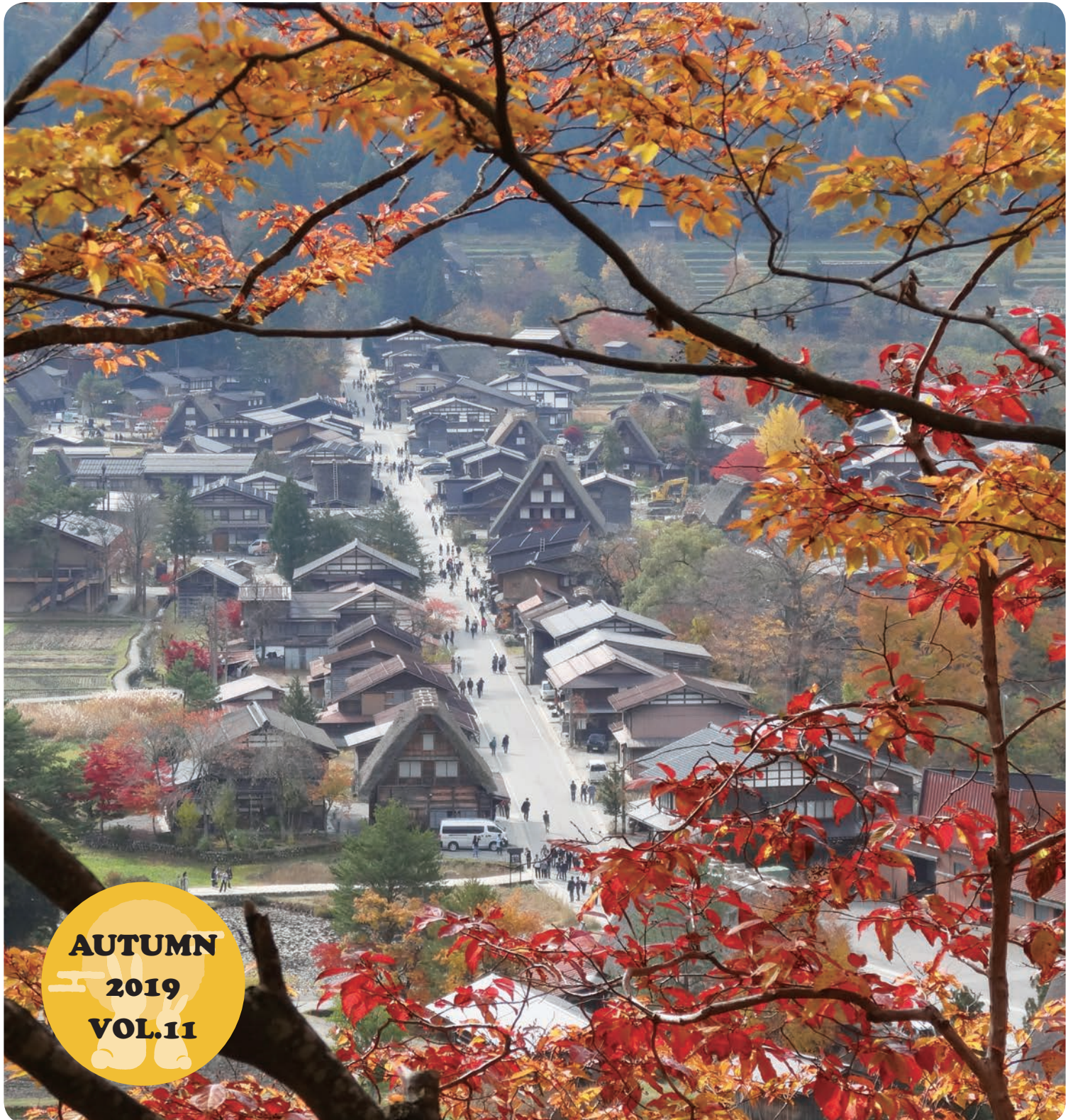
わが社のこだわり

日産自動車株式会社

ぶっちぎれ 技術の日産！

ZOOM UP 中国・四国・九州地区協議会

JIPA通信 海外研修の紹介



AUTUMN

2019

VOL.11

自ら特許を100件出願した経験に基づき
長期的視野で知財経営を体現している柵山会長に
戸田理事長がインタビューを行った。

知財の大切さを身にしみて経験

戸田 入社以来、電力システム事業に従事され、いろいろな発電機の発明をされたとお聞きしています。発明を生み出す時のご苦労をお聞かせ下さい。

柵山 1977年に三菱電機に入社して最初に配属されたのが大型発電機的设计開発部門でした。当時、海外メーカーと技術提携をしており、さらにその先を行く自主技術を開発して技術的に自立することが非常に大きな経営課題だった時代です。その経営課題の実現に向けていろいろと取り組みをする中で、将来技術に関する特許を100件ほど、出願しました。さらに、技術提携先との知財契約の更新に関する機会もあり、その大切さを身にしみて感じました。

戸田 先を見越して特許を書く秘訣やコツがあるのでしょ

うか。
柵山 実物大のモデルを作りながら特許を書きました。当時、先輩から「自分たちの考えたモデルだけを特許で出願するのはなく、それを実現する他の方法も全部出願しない」と意味がない」と言われて、特許網と

いう考え方をかなり教育されました。

知財は経営の基盤

戸田 そうしたご経験がベースになっていると思います。経営者として三菱電機の知財をどのように事業に活かしていくのか、お聞かせ下さい。

柵山 知財は経営のベース、根っこであるという考えが定着しており、足元の景気の変動に影響されず、出願件数は絶対落とさないという方針で取り組んでいます。新卒者の採用数や研究開発の投資額も同様です。

戸田 御社は、基礎的な技術から応用まで、いろいろな技術領域をカバーされていますが、技術のポートフォリオとして、これは自前で育て、それ以外はオープンイノベーションというお考えはございますか。

柵山 開発に関して言えば、共通技術、将来技術、それから直ぐに使う技術、とある程度区別して目安をつけたがら費用を投入しています。将来技術で最近花開いたのが、電力を制御する「SiCパワーデバイス」です。20年位前から、ものにならないと言われ続けながらも開発を続け、今では都内を走っている



Special INTERVIEW No.011

知財は経営の揺るぎない基盤。 新たなビジネスモデルが必要な時代に 知財にも経営的視点を取り入れ貢献

柵山 正樹 Masaki Sakuyama (写真右)

日本知的財産協会 会長／三菱電機株式会社 取締役会長

戸田 裕二 Yuji Toda (写真左)

日本知的財産協会 理事長／株式会社日立製作所 理事 知的財産本部長



JR山手線等で沢山お使い頂いています。次のSiCパワーデバイスのような技術を今、自前で育てて作り込まなければならぬとずっと言っています。

戸田 展開した鉄芯に巻線してから丸める高効率な「ボキポキモータ」の開発やセキュリティへの注力など、基盤のところから将来まで読み解く力は、人材育成で工夫されているのでしょうか。

柵山 それは人材育成というよりも、どちらかというとマネジメントの役割だと思っています。モーターを見たときに、これは成熟技術だから海外の件費が安いところへ出すべきと考えるのか、いや、やはり社内ですっかりと開発すべきと考えるかです。

2030年を見据えた知財戦略

戸田 日本知的財産協会の総会で、知財を積極的に経営戦略に取り入れるべきと伺いました。

柵山 強い製品を作ればよい時代は終わりつつあり、それらを組み合わせて新たな価値を作る、そういうビジネスモデルをつくり出さなければならぬ時代に入っています。内閣府の知的財産推進計画のような2030年を見据えた知財戦略を我々も考えなければいけないと思います。JIPAは非常に多くの企業、幅広い業種の

集まりなので、2030年の知財戦略に向けた意見をうまく集約し、業界代表として提言していきたいと思っています。

人材育成とJIPAへの期待

戸田 知財部門は、どうしても現場目線になってしまい、もつと将来を見据えた上で、何をやるべきなのかを考えなければいけないと思います。

柵山 新たなビジネスモデルを考える時代に入ってきている中で、知財を経営的な視点から見ていく必要があります。JIPAでは人材育成に関する非常に幅広い研修講座を行っています。経営的な視点を入れながらさらに進めていければ良いと思っています。

戸田 研修プログラムも経営目線とか最先端のテクノロジを学ぶみたいなものもどんどん取り入れていくべきだと思っております。会長のお言葉に大変、共感する次第です。JIPAに対して何か期待すること、提言があれば、お聞かせ下さい。

柵山 JIPAは非常に幅広い企業の集まりであり、しかもそこに本来壁はないはず。さまざまな融合や共感を生み出す交流の場になるような取り組みをしていきたいと思っています。

わが社のこだわり **【日産自動車株式会社】****ぶっちぎれ 技術の日産！****別宮 智徳 Tomonori Bekku**日本知的財産協会 副理事長
日産自動車株式会社 知的財産部 部長

NISSAN MOTOR CORPORATION



日産自動車は、「人々の生活を豊かに」というビジョンの下、独自性にあふれ、革新的なクルマやサービスをお客様にお届けし、皆様にその価値を認めて頂くことを使命としています。1933年の創業以来、「人のこころまでも動かすクルマをつくりたい」という理想を追い求め、不可能に挑んできました。その絶え間ない挑戦の連続が今日の「技術の日産」を作り上げ、日本初、世界初の技術を数多く世の中に送り出す原動力になっています。クルマが普及し、多くの人が利便性や運転する楽しさを楽しんでいます。一方で、環境問題や交通事故等、多くの課題に直面している現実もあります。日産自動車は、世界をリードする自動車メーカーとして、常に革新的な技術を提供し、「持続可能なモビリティ社会の実現」に貢献していきます。

日産自動車の取り組み

日産自動車は、クルマでの移動をより安全に、よりスマートに、より楽しいものとすることを宣言し、走行中のCO₂排出をゼロにする「ゼロ・エミッション」と、弊社の製品がかかわる交通事故の死亡者を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」の達成を最終目標と定め、企業活動を推進しています。具体的には、「Nissan Intelligent Mobility」というコンセプトの下、「もっと自信を持てるドライビングを」(Nissan Intelligent Driving)、「もっと走りの快感を」(Nissan Intelligent Power)、「もっと繋がる便利さを」(Nissan Intelligent Integration)の3つの要素によって、お客様にワクワクするような体験を提供します。

Nissan Intelligent Driving

日産自動車は、「ゼロ・フェイタリティ」の実現のため、長年に渡り自動運転技術の開発を推進し、その集大成として2016年に、「プロパイロット」を搭載した「セレナ」の販売を開始しました。高速道路の同一車線内を走行している時は、ステアリング（ハンドル）、アクセル、ブレーキが自動で制御されるため、渋滞やロングドライブでのドライバーのストレスが大幅に軽減されます。

さらに、今年9月発売の新型「スカイライン」に搭載された「プロパイロット2.0」では、高精度地図データと360度周囲セン

シング、インテリジェントインターフェイスによって、同一車線内のハンズオフ（ハンドルから両手を離れた状態）が可能となりました。また、前方車の速度に応じてシステムが追い越しを提案し、ドライバーはハンドルに手を添えスイッチを押すだけで車線変更を行うことができます。

**Nissan Intelligent Power**

電気自動車（EV）は、環境に優しい「ゼロ・エミッション」であるだけでなく、驚くほどの静寂性を持ちながら、パワフルで滑らかな加速を味わうことができます。「日産リーフ」（LEAF）は、日本だけでなく海外でも数多くのお客様に使われている量産型EVとなっています。

また、弊社独自のパワートレイン「e-POWER」は、100%モーター駆動のスムーズさ、力強さと、トップレベルの燃費を両立する技術であり、「ノート」「セレナ」に搭載されています。

Nissan Intelligent Integration

クルマがより便利になるように、さらに広く社会とコネクすることで、新しい可能性を広げていきます。例えば「LEAF to

Home」による電力料金の節約、非常時のバックアップ電源としての活用や、高度なナビゲーション、予防メンテナンス、無線ネットワークによるアップデート等を通じたドライビングエクスペリエンスの改善に取り組んでいます。

知的財産の取り組み

自動車業界は、「CASE（Connected, Autonomous, Shared mobility, Electrification）」のキーワードに象徴されるように、大変革の時代を迎えています。特に「つながるクルマ」や「シェアリング・エコノミー」が、業種を超えたプレーヤーの参入と新たなサービスの提供を拡大させています。知的財産の面でも、「日産らしさ」を象徴する技術やブランドの保護・活用に加え、標準必須特許や新しいサービス分野における課題への対応が求められています。その意味では、業種を超えて知的財産制度の改良や研究に取り組めるJIPAの存在は大きな支えになっていますし、弊社としても協力していきたいと思っています。





地域の活性化・JIPA活動の浸透に向けた取り組みを進化！

みなさん、中国・四国・九州地区協議会をご存知ですか？ 当協議会の歴史は浅く、2012年度のプレ協議会を経て、2013年度に発足し、今年度でようやく7年目を迎えました。会員数は現在46社です。関東・関西に比べ、知財セミナーや交流が少ないこの地域の会員のために、会員間の情報交換・人材交流の促進により知財活動の活性化を図ること、JIPA活動を地方にも浸透させてそのブランド価値をさらに向上させることを目的として、活動を開始しました。

主な活動は、年3回の本会合と臨時会合の開催です。気軽に参加できるよう参加費は無料(懇親会費のみ)としています。そのため、会員企業に会場提供や工場見学をお願いするなど、相互に協力して運営しています。会合は、広島・福岡がメインですが、年に1回はそれ以外の県でも開催しています。昨年度は、島根(ジェイ・エム・エス)、徳島(大塚製薬工場)と2回開催しました。会合には地域の発明協

会会員の参加も認めており、JIPA新規入会のきっかけ作りという役割も果たしています。

本会合では、工場見学、知財トピックスの紹介、特別講演会を行い、企業・大学などから知財専門家を講師に迎え、タイムリーな話題を提供しています。臨時会合では、専門委員会を招き、部会レベルの報告を聞く機会を提供しています。当協議会の特徴は、講演に関連したテーマを設定し、グループディスカッションを行っていることです。参加者からは、他社の取り組みが参考になった、より理解が深まったなど大変好評です。また、打ち解けた雰囲気のまま懇親会が始まるため、いつも盛り上がっています。今年度は、7月12日に第1回会合を広島(コ



ベルコ建機)で開催し、次回は10月4日に鹿児島(京セラ)での開催です。活動をさらに活性化させるべく、先んじて活動されている東海地区協議会に合同開催を提案したところ、ご快諾いただきました。初の試みとなる合同協議会は今年度後半に開催予定です。

また、当協議会の大きな活動成果として、広島・福岡・北九州地区でのサテライト研修の実現があります。業務多忙の中でも東京・大阪に出向くことなく受講・質疑応答も可能なサテライト研修を提言し、関西事務所の絶大なご尽力と本部のご理解により、試行段階を経て、正式にスタートできました。現在も幹事企業を中心に研修運営に協力しています。

当協議会の会員資格は、中国・四国・九州地区に知財部門あるいは知財を創出する研究所・工場などがあることだけです。本社が3地区以外でも、事業所が地区内であれば入会できますので、これを機会にぜひご入会ください。

JIPA通信 海外研修の紹介

人材育成委員会では、来年度の海外研修として、欧州(F04)研修とインド(F06)研修開催を予定しています。

昨今、英国のEU離脱が世界経済に与える影響が話題になっておりますが、欧州研修ではロンドンとミュンヘンに一週間ずつ滞在し、知財動向も含め現地専門家の意見を聞ける機会となります。また、インド研修ではニューデリーに一週間滞在し、インド知財政府機関などを訪問します。インドの国情やビジネス状況を垣間見る機会となります。両研修とも、現地企業と知財戦略の意見交換を予定しており、知財リテラシー向上を目指します。11/20より応募開始となりますので、皆様のご参加をお待ちしております。



表紙の写真は…

「紅葉フレームと賑う白川郷」

株式会社ソシオネクスト 知財法務統括部
知的財産部 大塚 善徳

紅葉に色づく世界遺産白川郷は、岐阜県の山奥にもかかわらず年間150万人が訪れる国内外に知られた観光地です。県と村が連携して白川郷ブランドの宣伝活動、新たな観光資源の発掘、環境整備を進めてきた努力により、驚愕の集客力を生み出しています。合掌造りは豪雪地帯の白川郷にとって適した建物構造で、風向きを考慮して南北(写真の上下方向)に面して建てられています。屋根裏は養蚕業の作業場として使われていました。金沢からバスで1時間程度のアクセスの良さ。この秋、足を運んでみてはいかがでしょうか。

本誌では、季節感があり、技術、特許、知財に関連がある表紙写真を募集しています。写真と説明文を会誌広報グループ kikansi@jipa.or.jp 宛てにお送りください。また、取り上げて欲しいテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。